

活動メンバーよりご報告 のつづき

畑の時期にみんなでジャガイモを植えて、秋にカレーを作るのはどう？

若い人と一緒にできれば若い人のためにもなる

寒くなってきたら手仕事をするのもいいね

道の駅で売れるかも！

作品が売れてお金がたまったら日帰り旅行にも行けるかも？！

それを目標にがんばるのもいいね

やってあげるとは楽しい！おいしいといってもらえとうれしい！

おばあちゃんたちも、自分が何かを“やってあげて”喜ばれるのはうれしいかも。うれしいことは半分こして、お互い様の関係づくりを

お年寄りの生活支援 ～居場所づくり～

歌集も作ったし、これからもお茶のみを続けていきたい

プロジェクト

1

プロジェクト

3

報告会
実行委員会

活動報告会

「みんなで語ろう！道志の未来
ありのままを伝え、集い、つなげよう」

活動報告会は今年3月に開催予定でしたが、震災により延期となりました。今回、報告会を改めて開催しようとPJ3メンバーから提案があり、報告会運営委員で話し合いを再開したところ、活動を先に進めるには、役場との協働のあり方が課題だという声が上がりました。

報告会は、村の暮らしを良くしようと活動している人に参加してもらいたい

役場には、安心村づくりのメンバーがどんな思いで活動をしていて、この活動自体が村を支えることになるということを知ってほしい。

報告会の前に、まずは役場とのコミュニケーションをきちんととることから始めよう

役場と村民の協働のあり方については中面もご覧下さい

発行責任者：池谷力三

この事業は平成23年度予算の「高齢者福祉事業調査費」により村民・役場・委託事業者の協働作業で行われております。

〈お問い合わせ〉
道志村役場住民健康課 52-2113まで

編集後記：東日本を襲った大震災と原発による被害は広域にわたり、これまでの自治体の枠を越えての対応が求められています。行政が機能しなくなった自治体では、ボランティアや多くの人々の支援によって復旧・復興活動が行われています。今私たちは、地域の課題を行政と村民が一緒になって解決する取り組みの大切さを、改めて痛感しています。(m・o、m・m、s・n)



「世代を超えて安心して暮らせる村づくり」プロジェクト 第3期に突入！

道志村未来通信 9



2011年11月1日発行

安心して暮らせる村にするために、何が必要？

今回は去る9月29日におこなった全体ワークショップの様子とプロジェクトメンバーの活動の声を報告します。各プロジェクトが活動の様子を共有しながら、その中で活動を継続していくためにどうすればいいのかわかり、自分や家族・まわりの人たちが安心して暮らせる村にしていけるためにどんなことが必要かをいろいろな角度から考え話し合いました。役場とのコミュニケーションや役割分担についても、これから継続的に取組みを進めていくことが必要のようです。

今、こんなことをやっています！考えています！ 活動メンバーよりご報告

「他のプロジェクトではどんなことをやっているかわかりたいわ〜」という意見があったので、全PJの意見交換を全体会で定期的に行いましょう！

あなたも一緒に心豊かな道志村の暮らしのために、一緒に活動しませんか？活動メンバーが首を長くして待っています〜

プロジェクト

2

移動手段のない 子どもや高齢者の支援 ～送迎や買い物代行

■期待度満点の買い物ツアー

移動手段をもたないお年寄りのために4月から毎月1回、買物ツアーが行われています。役場のバスで毎回14〜15人が参加し、食料品をはじめ日用品・農業用品や植木、ペット用品などそれぞれ必要なものを購入。8月には扇風機が手に入り喜んだ人もいました。

この買物ツアーは、あるお年寄りが買い物に行くのに「往きはバスで行くが、帰りは荷物があるのでタクシーに乗り7000円ぐらい使う」と嘆いていたことを聞き、「買物ツアー」ができないかと協議、住民健康課が取り上げて役場の行事として実現したものです。

プロジェクトのメンバーも毎回3〜4人が介添え役として荷物運びなどのお手伝いをしています。また、買物のついでに店の近くの名所に立ち寄り「ささやかな旅行」気分も味わいます。参加した人たちは、「ゆっくり買い物ができてよかった」「買い物をしておしゃべりもして気分いい」「外での食事が楽しい」など、喜んでいました。



参加したい方は、住民健康課に問い合わせてください。(活動メンバーのSさんからの報告でした！)

■路線バスを利用しやすく！

村内のバス移動について、使いやすいダイヤ表と路線図・運賃表を作成し、10月号の広報と一緒に配布しました。是非ご活用下さい！ご意見もお待ちしています！

90才まで生きるとしたら ～私のこれからの人生、そして村のこと

7月8日にやまゆりセンターで秋山弘子先生による「長寿社会のまちづくり」講演会が開催されました。今や人生90年の時代。長くなった高齢期を元気で活動的に過ごすには、そのイメージを持って計画することが大切というお話でした。

その後、活動メンバーのやりとりの中で、「とってもいい話だったけれど、これからの自分にどう生かしていったらいいかが分からなくてもやややっている」という声があがったため、今回のワークショップは、「人生90年の時代～私の今までとこれからの人生、そして村のこと」をテーマに、1人1人がどんなことを考えているかやりとりをしました。

自分の10年後、20年後、30年後…どんな自分でいたいのか・どんな暮らしをしたいのか・何かやりたいことがあるかなどなど自分の理想を思い描き、そんな自分であるため・そんな暮らしをするため・そんなことをやっていられるようにするために必要なこと・心配なこと、どんな村であればそれが実現できそうかを考えてみました。

ほとんどの方が「自分の20年後なんて考えたこともない」とおっしゃっていましたが、せっかくの機会ということで、皆さん「難しいわ」とおっしゃいながらもいろいろな話題が交わされました。

年を重ねたとき、 こんな自分でいたい

- ・自分のことは自分でしていきたい
- ・仕事をしていきたい、続けていきたい
- ・車を運転していきたい
- ・自分の足で歩いて、好きなことをしていきたい
- ・畑仕事をいっぱいしたい
- ・お父ちゃんと楽しく過ごしていきたい
- ・山梨県を旅行したい。四季を感じたい。
- ・外国旅行がしたい。

そのために必要なこと ・不安なこと

- ・健康でいること
- ・バランスの取れた食事が大切
- ・体力づくりを！
- ・近所づきあい、まわりとの関係づくり
- ・年金や経済面が不安
- ・子どもと一緒に暮らしていただけるかな
- ・家族に負担をかけないように

そのとき道志村が こうあってほしい

- ・緑や水が豊かであってほしい
- ・仕事がある
＝自分の子どもや孫が戻って一緒に暮らせる
- ・福祉が充実していてほしい
- ・子どもの声がする村であってほしい
- ・移動手段がしっかりしてて、気軽に呼べるような仕組みがほしい。
- ・村の人とのつながりを強くしたい

その他の意見

- ・今まで考えたことがなかった
- ・何もしないつもりで道志村にきたが、もったいないと今は思う。真剣に考えているので、意見がまとまらないが、皆さんの考えを聞けてとても良かった。これから考えたい。

意見交換の中で、高齢者福祉への不安の声が何人かの方からあがりました。それは、「自分の受けたいサービスを選べるだけの選択肢がない」ことです。

たとえば、デイサービスを充実させたり、ショートステイができるようになってほしいという具体的な意見も出されました。

【住民健康課より】

11月から「平成福祉会」が指定管理者となりデイサービスを始めます。祝日も利用できるようになり、土日のお泊りもできるようになります。

介護保険を使うサービスだけでなく、いつまでも元気で行動的でいられることが大切。きちんと身なりを整え、お茶のみや買い物に出かけることもその一つ。今ある不安を安心に変えて行くには、この活動を未来の自分に生かし、今から何ができるが大切だね。

コーディネーターからのメッセージ

「世代を超えて安心して暮らせる村づくり」プロジェクトにかかわってから、早いもので3年目。この間、お茶飲み会や買い物ツアー、移動手段のありかたの検討、道志の残したい伝統を伝える広報活動など、村民有志の活動メンバーの皆さんは地道に楽しく、大変なことも皆で乗り越えて活動を続けてきました。村民一人ひとりでは思っても口に出せなかったこと、皆とともにうまく話せなかったことなどが少しずつ話せるようになったことが、プロジェクトをコーディネートする一人として、今ではとても頼もしく思えます。

「世代を超えて安心して暮らせる村づくり」プロジェクトの活動は、村役場に頼るだけでなく村民同士のきめ細かい支え合いによって村民1人1人の心豊かな暮らしを実現していくこと、そのために村民1人1人が自らの意志で役割と責任を持って行動し、道志村を良くしていきたいと願い支え行動するすべての人に開かれた活動とすることを基本理念としています。そして、その活動は常に具体的に進め、いままでの村の良いところも悪いところも前向きに捉え、失敗を怖れずにまずはやってみる、不具合があればやり方を変え未来に向かうことを大切にしています。

このような村民の活動が育ってきた一方で、行政との協働に関してはかなりの行き詰まりを感じているメンバーも多くいます。今、望まれているのは、村民の話し合いを基本として村民に必要とされる事業を起こしていくような仕組みを、役場の縦割りを越えてつくることではないかと思います。特に、道志村のような顔の見える規模の村では、きめ細かくかつダイナミックな村民の活動を支え共に歩むことが、村の未来につながっていくのだと思います。この安心村づくりの活動メンバーは、この活動の主体者として誇りを持って活動しています。道志村の新しい協働の文化を村民と一緒に創っていきませんか。

(PJコーディネーター NPOコレクティブハウジング社 狩野三枝)

